

担い手通信

JAバンクは地域の担い手を応援します

今月の話題

自走型 急傾斜の畦畔スイスイ

草刈りはロボ任せ

法人が続々導入 人手不足に対応 中国地方の中山間地

中国 中国地方で、水田などの畦畔（けいはん）管理に活躍する草刈りロボットの普及が進んできました。主流はリモコン式の自走型。急傾斜が多く人手不足に悩む中山間地では、除草作業が大きな負担となっています。労力軽減に加え、安全に作業できるため、集落営農法人などで導入が広がっています。

驚きの声が上がりました。

法人が管理する27ヘクタールのうち、畦畔は5ヘクタール。錦織満代表は「大半が急傾斜で、作業は足腰に相当な負担が掛かる。安全と省力化を実現する有力な手段だ」と評価します。

山口市の農事組合法人川西は今年、自走型の草刈り機を導入しました。農地の受託面積は年々増え、2009年の30ヘクタールから17年は150ヘクタールに達し、規模拡大に対応するためです。さらに、スマート農業によりビジネスの拡大を目指します。15、17年に1人ずつ20代を雇用し、ドローン（小型無人飛行機）防除とともに

島根県雲南市の農事組合法人すがや。8月下旬、組合員がドイツ製のリモコン式自走型草刈り機「aria 9600」の実演を見守りました。刈り幅は1メートル

12センチ、刈り高は5センチで、最大傾斜50度まで作業が可能。横15メートル縦10メートルで傾斜40度を優に超す畦畔が、20分ほどできれいに。あまりの早さに、



40度を超える急傾斜をすいすいと進む自走型草刈り機（島根県雲南市で）

豚コレラ

今が旬
この言葉

豚コレラ

豚とイノシシが感染するウイルス性の家畜伝染病です。急性型は高熱や食欲不振の他、耳などに紫斑が出て、短期間で死亡してしまいます。1992年に熊本での発生後、07年に清浄化を達成し、15年にOIE（国際獣疫事務局）から清浄国認定を受けました。9月上旬、岐阜で豚コレラの発生が確認されました。9月19日現在、新たに豚への感染は確認されていませんが、引き続き警戒が必要です。

に、ロボット草刈り機による作業受託を担います。小林紀代士代表は「オペレーターの世代交代を進めながら、新技術を活用して周年の仕事と収入を生み出す。防除と除草の作業受託を広げたい」と展望を語ります。

肥効調節型肥料で面倒な追肥の手間を解消 硬質小麦「ニシノカオリ」の安定生産を後押し

三重県農業研究所は、硬質小麦の栽培に適した肥効調節型肥料を開発しました。この肥料を基肥として使うと、これまで行っていた3回の追肥を省いても従来と同じ収量・品質を保つことができ、硬質小麦の栽培の省力化が期待できます。

肥効調節型肥料の窒素成分は、速効性肥料と30日タイプのシグモイド型緩効性肥料、および20日タイプのリニア型緩効性肥料を1…2…2の割合で配合しました。リニア型は播種（はしめ）後から全生育期間にわたって、シグモイド型は幼穂形成期以降から、窒素が溶出します。そのため、肥効が持続し、追肥の手間を省くことができます。

施肥量は、慣行施肥体系の総施用窒素量（基肥＋追肥）と同じ量を基肥として与えます。暖冬多雨年など、出穂期の葉



硬質小麦に適した肥効調節型肥料「小麦専科32」の製品パッケージ

お問い合わせ先 三重県農業研究所 農産研究課 ☎ 0598-42-6359
中央農業改良普及センター 地域農業推進課 ☎ 0598-42-6323

県内NEWS

(日本農業新聞より)

■ JAみえきた とんてき用ソース販売 「四季菜」尾平店

「とんてき」といえば三重県四日市市——。B級グルメとして知られる「四日市とんてき」用のソースを地元のJAみえきたが販売している。直売所「四季菜」尾平店で扱う人気商品だ。とんてきに使う豚肉やニンニク、付け合わせのキャベツだけでなく、ご飯ともよく合う仕上がりが。そこで直売所は、県産「コシヒカリ」の包装米飯も一緒に販売し、米の消費拡大を狙う。ソースは地元の食品企業と連携し、開発した。1本(300ミリリットル)550円で販売する。
(2018/8/27 直売)

■ JA津安芸 加工・業務用キャベツ 作付面積2倍に拡大

JA津安芸の子会社、(株)ジェイエイ津安芸は8月上旬、JA営農対策部と連携し、休耕田を活用した加工・業務用キャベツの定植作業を行った。今年度の加工・業務用キャベツの作付け予定面積は、2017年の15アールから2倍の30アールに拡大。農業法人の経営を多角化し、野菜栽培に適した圃場（ほじょう）を活用して収益性を上げることが目的に17年度から取り組んでいる。
(2018/8/22 ワイド2東海)

■ JAいがふるさと 実証圃 15カ所に設置 伊賀米 食味向上へ

三重県のJAいがふるさと伊賀米振興協議会の食味向上部会は、「伊賀米栽培技術実証ほ」を伊賀市・名張市管内15カ所に設置し、生育に関するデータを蓄積・解析している。生産者の栽培技術向上や伊賀米の食味向上を目的に、県農業研究所伊賀農業研究室が取り組む「農林水産業のスマート化促進事業」と連携。圃場（ほじょう）の調査・分析をドローン（小型無人飛行機）などの機材を活用しながら進め、解析したデータを生産者に反映する手法を検討中だ。
(2018/8/24 ワイド2東海)

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を応援します！

農業を営むすべての方に

農業経営資金

対象期間／平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を**5年間軽減**いたします。

JAバンク利子補給制度 **3年間**と
当JA金利引き下げ **2年間**措置の対象となります。
利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

(お借入金利) 変動金利 年 1%	-	(JAバンク利子補給・金利引き下げ) 年 0.8%	=	実質 年 0.2%
-----------------------------	---	-------------------------------------	---	------------------

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>
平成30年9月現在

※JAバンク利子補給・当JA金利引き下げ後のご負担金利は0.2%を下回らないように調整されます。
※イメージは実際とは異なる場合がございます。詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。
※JAバンク保証料助成により、実質保証料が0円となります。